

「炎暑の巻」

夏ですね。暑さがこたえます…。

さて毎度おなじみのこの駄文、近ごろはもっぱら極私的にハウス・ミュージックにかんする話題をという本旨から離れておりますが、今回もまたその例に漏れず――。

こうも暑いとやはり食欲減退が著しくなりはしませんか？ 腹は減っているんだけど、なにが食べたいかといわれてもなんだろうなあ、なんてことになったり。

さて、そんな夏にあなたはなにを食べていますか。冷奴・そーめん・冷麺・お茶漬けetc.のひんやりしてサラッと食べられるものばかりになってませんか。

ワタクシはまったくその通りで、なかでも好きなのが「とろろそば」です。キリっとしめたそばにとろろと生卵・青のりが乗っかり、薬味にはねぎとわさびというシンプルなタイプが好みです。

ざるそばも好きですが、つるつと食べ終わり過ぎて少々の物足りなさを感じるんですよね。かといって蕎麦屋で2枚3枚と食うと高くつく。その点とろろはお腹が膨れるし、ズズズという音がまた美味しいじゃないですか。

先日、といってもいまほど暑くなるより前ですが、東京に行くことがあり、さて昼飯をどうしようかと考え、東京なんでそばでも食うかな、なんて具合に蕎麦屋の暖簾をくぐり、メニューにあった「とろろそば(冷)」を頼んだわけです。

もちろん頭の中で描いていたのは上述のようなとろろそばです。ところが、目の前に出てきたのは思い描いていたとはまるで異なるとろろそば。ざるに乗ったそばとお椀状のうつわに入れられたとろろ、そして徳利にはそばつゆ。一見、なんじゃコリャです。

たしかにとろろ&そばですからとろろそばに違いありません。しかもそばつゆととろろは冷えているのでまちがいない(冷)です。

ですが、はたしてワタクシの腹が待っていたのはこれではごさい「せん」！ ひとつの器に盛られたそば・とろろ・卵・そばつゆをかき混ぜて一体のものとし、おもむろにズズズ、ズズズとすする、アノとろろそばです。

しかし目の前にあるのは食べかたのわからぬ未知のとろろそば。しかたなくそばつゆととろろをあわせ、そばをつまんで椀のなかのとろろつゆにつけてざるそばの要領でズズと食べたのですが、やはりしっくりこない。首をひねり、こんな食べかたでいいのかと自問しながら平らげたものの、なんとも食った気になりません。

そのときです。不意にメニューに目をやると、なんとそこに「山かけそば」という文字があるではありませんか！

ひょっとして自分の思っていたのはこちらではないのかと考えても、もはやあとの祭り。これが魔都東京のトラップか――。

なんとも寂しい気持ちでお勘定を済ませてそそくさと蕎麦屋を後にし、目的の江戸東京博物館に向かったのでありました(博物館のはなしはまたの機会に)。

てなことで、食欲不振でお疲れのあなたもcollectiveでは冷えたビールでも片手に楽しいひとときを過ごしてください。レッツ・エンジョイ・サマー&そば！

暑すぎる日々が続いていますが皆様いかがお過ごしでしょうか。私は仕事柄クーラーの効(きすぎた)事務所に一日中閉じこもっているの、夜や週末はなるべくクーラーを使わず汗をかくようにしています。そんな汗かき週末の話を少々。今回は毎年かかさず行っているお祭りの話。

お祭りといえば屋台！神輿！そして花火！が定番ですよ？テキ屋の兄ちゃんが顔を真っ赤にして「いか焼きあるよ」とか「りんご飴どうだい？」とかそんな風景よくみかけませんか？でも実はそんな風景が全くないお祭りが名古屋にはあるんです！御神輿だって当然ありません！共通するのは屋台だけ。でもこの屋台も中身が普通と違うんですよ。気になるでしょ？

そのお祭りは「覚王山祭り」と言って、名古屋の覚王山というところで春、夏、秋と年に3回行われています。覚王山は、日泰寺というタイから寄贈されたお釈迦様の遺骨が安置されている寺院があり、そのお寺を中心に古い風情の街並と新しい街並が合わさって広がっています。だから街全体がどこか古く懐かしいのにエスニック。その要素がお祭り全体に現れているので普通のお祭りとは全く違った雰囲気なのです。

まず一番の違いは屋台。屋台なのにワインがでるし、パスタにピザ、ブラジル料理にタイカレー、チーズやドーナツ、スープ、サンドイッチそして新鮮野菜まで！次に売っているもの。オリジナル商品、クラフト&アートな手作り品などオリジナルティを主体とする出店条件があるので、個性的なお店が立ち並んでいます。エスニック&アートがコンセプトとあったところでしょうか。音楽にも力を入れていて、ライブ会場では韓国太鼓やアフリカンミュージック、沖縄民謡やバリ舞踊など見る事ができます。覚王山祭りを通して世界の文化に触れることができるといったところでしょうか。少し大きですが、でも身近に異文化体験もできるしアートにも触れ合うことができる一風変わったお祭りなのです！大人はスーパーキングワインを片手に夏の夜民族音楽を聞きながら参道をぶらぶら。子供はヒーローのお面の代わりに自分で手作りしたオリジナルお面を被って沖縄民謡でダンシング！こんな楽しみ方ができるなんてちょっと贅沢じゃないですか？

次は秋に覚王山秋祭りがありますので是非とも覚王山へお越し下さいまし。秋祭りはアートに力を入れた、また夏とは違った雰囲気になるはず。愛知トリエンナーレもあるので是非。

information

次回コレクティブは晩秋の開催を予定しています。詳細はブログでご確認ください。

<http://blog-collective.blogspot.com/>

楠田行展の建もの探訪 第1回 京都二条城

皆さんは「お城」と言われてどんなイメージを持ちますか。姫路城。大坂城。天守閣。そして眼下に広がる城下町。櫓。殿様が住んでいる。女中。バカ殿。くわまん。などなど。いろいろあると思います。

城の基本的な役割は、外敵を防ぐための軍事要塞です。古代では土手、柵、石垣、濠などで侵入を防ぎました。中世では山など天険を生かした「山城」が発達し、安土・桃山以降は領国支配のため、平地に城郭が築かれました。これを「平城」といいますが一般的に城といえば平城をイメージしますね。思えば、ボクも様々な城に足を運びました。会津鶴ヶ城。新選組、尾関雅次郎が仕えた植村家の高取城。箱館五稜郭など。「今回のネタに近場で城がないかな」と思い返すと、京都を訪れてもいつも横目で通り過ぎていた城がありました。御所から南西750m、堀川通と御池通がプチあたる場所に存在する平城が。そう、二条城です。この城は、築城の経緯や残された話なども興味深いお城です。

二条城は、関ヶ原で勝利した徳川家康により、慶長7(1602)年に造築が開始されました。軍事目的ではなく、権力を示す政治的意図によるもの。翌年、家康は征夷大将軍に任ぜられますが、將軍宣下の祝賀をした場所が二条城でした。総敷地面積は27万5千㎡。城は、国宝二の丸御殿、勇壮な石組の二の丸庭園、茶室を含んだ清流園、内堀に囲まれた本丸御殿などからなります。やはり二の丸御殿は凄いです。大名の控えの間「遠侍(とおざむらい)」から始まり、老中が詰めた「式台」、將軍が大名たちと接見する「大広間」「黒書院」、將軍の居間「白書院」と、驚張りの廊下を雁行する造りで、各々の間に、狩野派による障壁画に加え、欄間の彫刻、意匠をこらした天井など絢爛豪華。徳川の威勢を実によく表しています。

築城以降、朝廷を守護する名目で、彼らを監視する拠点とされた二条城でしたが、歴史の舞台に再登場してくるのは幕末。嘉永7(1854)年の開国以後、衰退する徳川に対し、古来よりの権威天皇家に権力を集中し、外圧を払えという尊皇攘夷の根拠地となったのは京都でした。攘夷派に押され、文久3(1863)年3月、14代將軍徳川家茂は天皇に攘夷を誓うため上洛し二条城に入りました。家茂は攘夷を巡り軋轢が生じた幕府と朝廷を和解させようとしたが、果たせぬまま、二度目の長州征伐の最中、慶応2(1866)年7月に病死。12月、將軍後見職、一橋慶喜が、15代將軍に就任しました。彼は、徳川専制がもはや不可能だと認めており、土佐藩が提唱する尾張、薩摩、土佐などに徳川を加えた諸侯による合議政権樹立に耳を傾けました。そこで慶喜は、慶応3年10月14日、二条城大広間に在京の諸大名を集め、政権を朝廷に返上することを宣言(大政奉還)しました。しかし、3ヶ月の12月9日、薩長連合が中心となったクーデター、王政復古により、將軍職が廃止され新政府に慶喜が入っていないことを二条城で告げられます。街は薩摩に占拠され、行き場をなくした慶喜は京を去り大坂へ。主を失った二条城は皮肉にも新政府軍に接収され、太政官代が置かれました。徳川軍は翌1868年1月、鳥羽伏見で戦端を開き、敗戦。更に2月には明治天皇が二条城に行幸、白書院で討幕の詔を発しました。そして、その後一年以上に及ぶ戊辰戦争へと発展していくことになるのです。

権力の表裏を併せ持つ二条城。徳川が頂点に上った栄華の象徴でもあり、権力が崩壊した場所でもあります。徳川幕府260年の歴史を色濃く残し、今日に伝えているお城です。

TPのDJ “yu”

猛暑が続き、まさに夏本番だということをいやというほど感じさせてくれる今日この頃ですが、皆様、お元気でしょうか。

ご存知の方も多いと思いますが、5月の末に予期せぬ悲しい出来事が起こりました。

私は、悲しみを経て、残された生を今まで以上に目一杯明るく生きていこうという結論に達しました。元々好きなアーティストではあったのですが、テレンス・パーカーの作る一連のゴスペルハウスや、彼のDJスタイルの持つ「力強い明るさ」へより一層心打たれる今日この頃です。

先日、DJ活動30周年記念ツアーと称し、5年ぶりの来日を果たし、彼のDJを生で初体験してきました。デトロイト人気が磐石な評価のうちにある日本のハウス事情ではありますが、そんな景気の中にあっても、彼の近況諸々についてはあまり語られることがなく、私には日本のブースに立ってDJをする姿をイメージできぬ状態にありました。待ちに待ちわびた彼のDJについて簡単に説明させていただきます。彼はハウス中心の選曲でありながら、トランスフォーマースクラッチや2枚使いのループなど、オールドスクールなヒップホップのDJトリックに裏打ちされた圧倒的な技術を駆使しながらひたすらに明るく、やかましく、時にコミカルに展開しながら、突っ走るというスタイルです。これがまた、底抜けに楽しい。特にヴァイナル・ジャンキー垂涎モノのマニアックな曲をかけるわけではないのにフロアに居る者を飽きさせません。極めつけは、突如、マイケル・ジャクソンのビリー・ジーンズの二枚がけ！

なかなか、彼のDJについて説明するのは難しいですが、とにかく「楽しませよう」という姿勢こそが彼の一番の魅力だと思います。いわゆるディープハウス好きが喜ぶ「メロウな曲が心に染み渡るワ〜ン(ハート)」のような展開はあまりないですが、芸人で言うところのFUJIWARAの原西の一発ギャグのような爆發力を、機会があれば、一度体験してみたいかがでしようか。

TPの最新インタビュー (<http://www.higher-frequency.com/interview/111>)。

TPのpodcast (<http://terrenceparker.podomatic.com/>) 生で見るのとは違いますが、ミックスがたくさん聴けます。



東京のりりくらり “kengo matsui”

3月末から東京に住むことになりました。東京なんて行きたくないし、きっと殺伐とした砂漠に違いないと思い込んでいました。皆さんの中にもそのようなイメージを持たれている方もいるかもしれません。しかし引越して暮らしてみると、まさに住めば都と先人も伝えるように、それなりに楽しみながら暮らしております。東京はとても忙しい都市ではありますが、休みを見つけては少しずつ観光をしています。今回は、自分の見た東京の街を徒然なるままにお伝えします。

律義なひとびと

東京の人々はきっちりしています。なにせ横断歩道で信号を守る。通常感覚では、車が走っていなければ信号が赤でも横断するのが常識と思っていたのですが、都は違うア、とカルチャーショックを受けたものです。この街はあまりにも人が多いので、ひとりひとりが規則をまもらないとカオスになってしまうということをみんなうっすらと感じているため律義なのかもしれません。しかし染み付いた信号無視の癖は抜きがたく、僕は毎朝ひとり赤信号を渡るのです。全体的に東京の人はシュツとしています。

物価

物価は大阪よりも幾分高いです。とくに外食をする時に感じます。おひるごはんなどを外で食べると1000円くらいは見込んでいます。財政健全化が我が家の喫緊の課題です。

交通

ハイパーです。電車の本数が多いので10分以上待つことは皆無です。高度に発達しすぎて、携帯電話などを使わなければ乗り換えがわかりません。人も多すぎるので、タッチ式の乗車券というものが開発されるのもむべなるかなのところ。とにかくこの街では、あらゆることがまともに人が扱える量やスピードを越えています。東京は深夜まで電車が動いているイメージがありましたが、意外とそうでもありませんでした。ちなみに僕の終電は0時1分で、大阪時代のほうが遅くまでありました。

外食

今のところ、何度も行きたくなるようなおいしい店にほとんど出会っていません。関西のほうがそういうお店に行ける確率が高いですね。東京に詳しい方はぜひそっと教えてください。パトロールを続けます。

ゴミ

東京はゴミの分別がこまかいです。燃やすごみ。プラスチックごみ。缶びんペット、発泡スチロール、段ボールなどなど分けなければいけません。指定のごみ袋はないですが、透明系のビニール袋に入れます。分別の面倒さは、引越して当初は幾分購買意欲をそいでくれました。

気候

東京はとても風が強いです。風の谷と呼んで差し支えありません。恐ろしく強風の吹くことがあります。だから夏でも意外とすずしい時もあります。

ではまた次回へ。